**京大１１月祭北部祭典参加　植物園まつり特別観察会**

**2004年11月20日(土)13:00～15:00　晴れ**

**☆ガイドレポート**

スペシャル観察会ということで、京大植物園の名物とでもいうべき植物をひと通り見ていただき、また季節柄、木の実の話題を多くしてご案内しました。門を入ってすぐ右手にチャンチンモドキ（ウルシ科）の大木がありますが、熟した実が落ちていました。食べると酸っぱいのですが、ネパールではこれを漬物にするそうです。日本人にとっての梅干のような大事な食べ物だそうで、私が院生で園内の研究室にいた頃には京都在住のネパールの方が拾い集めていましたが、今はどうなのでしょう。タイの熱帯季節林ではこの実をいろいろな動物が食べていました。芽を出した場所から一生歩けない植物は、足元では子供が育たないという矛盾を抱えています。そこで自然界の他のものの動きを利用して種子を運んでもらっています。なかでも多く働いているのが鳥やけもので、餌として木の実から果肉を食べる代わりに、種子を運んで糞と一緒に落としています。

木の実には、なり年と不なり年を繰り返すものがあります。今日のコースの最後で見たブナ科のいくつかの種はその代表で、毎年一定の量をつけているとすべてネズミに食われてしまうので、生き残るように数年に一度多く実をつけるようになったと考えられています。しかし、鳥が種子を壊さずに運んでくれる実でも、なる年とならない年の実の数が極端に違うものがあります。研究室の南にあるナナメノキ（モチノキ科）もそのような木です。今年は実をつけていませんでした。これは、木のほうの生理的な要因で決まっていると考えられています。冬に実がなる照葉樹では一般に、夏が暑かった年の次の春に花が多く咲き、その次の冬に熟す実が多くなる現象が見られます。

ボダイジュ（シナノキ科）の実がなっていました。種子の上の「ほう」が落下傘のようになってくるくる回って落ちてくる様子を観察しました。お釈迦様がその木の下で悟りを開いた菩提樹とは、本当はクワ科イチジク属のインドボダイジュなのですが、中国ではこの木が菩提樹とされるようになりました。なぜそうなったのかは知りませんが、種子で数珠をつくることと関係があるのではないかと思います。日本へは留学僧が持ち帰り、お寺に植えられています。このような「風散布」の種子をつけるものでは、ウバユリ（ユリ科）、ハナノキ（カエデ科）、トネリコ（モクセイ科）などを見ました。

セッケンノキとトウサイカチは、中国原産のマメ科の木で、大きなさやが落ちていました。このさやは種子散布にどう関係しているのかよくわかりませんが、厚めの果肉様のところがあります。ここにはサポニンを多く含んでいて、水に入れると泡立ちます。魚毒や洗濯用に使われました。日本のサイカチもかつて同様に利用されていたのですが、現在も細々と使われており、私は盛岡市の荒物屋さんでサイカチのさやを1束買ったことがあります。参加者の方から、ムクロジ（ムクロジ科）の実も洗濯に使ったと教えていただきました。ムクロジの黒く大きな種子は羽根突きの羽根の玉にしますが、その周りにある果皮にはサポニンが多く含まれています。池の近くに植えられているムクロジの下で実を探しました。

動物の運ぶ種子の中で、食べるところのないものに付着型の種子（ひっつきむし）があります。今日はイノコヅチ（ヒユ科）やチヂミザサ（イネ科）がみられました。

園の東端に、世界で最も高くなる北米産の針葉樹、セコイア（スギ科）があります。これと似ていて葉が対生につく（セコイアは互生）ことからメタセコイア（アケボノスギ、スギ科）と名づけられた木は、現在全国に植えられていますが、日本に最初に来た３本のうちの１本が園の中央近く（小山の南）にあります。

当園の教官だった三木茂先生が、1941年、日本の植物化石からメタセコイアという新属を記載しましたが、その２年後、中国四川省でこの属の生きている木が発見され、「生きている化石植物」として有名になりました。戦後、アメリカで育てられた苗が３本、日本に送られてきましたが、そのうちの１本が三木先生の縁で当園に来ました。他の１本は皇居にあり、残りの１本は行方不明だそうです。当園で挿し木して苗を作り、おもに西日本の各地へ配られました。

ところがこの「原木」は、よく学校などで目にする子孫に比べても大きくありません。当園の池の近くにある木と比べても小さいです。そのわけは、村田源先生によると、２度も植え替えの憂き目にあったため、根が切られて大きくなれていないのだということです。

メタセコイアに似たヌマスギ（スギ科）は池のほとりに植えられています。この木は湿地に生え、水の下から呼吸根というものを出して呼吸します。ここでも棒のように生えた呼吸根を見ることができます。

池では参加者の川那部浩哉先生から、園内の動物を対象に行われた研究として、アメンボのなわばりの分布様式を調べた森下正明先生の研究を紹介していただきました。この池にはウシガエル（食用ガエル）が棲んでいますが、ずいぶん昔からいるようで、戦後の食糧難の時代には学生が取って食べたそうです。ある学生が池で大きなウシガエルを捕まえて、さあ料理しようと背中を見たら、色のつく薬品で「あしだ」と先生の名前が書いてあって、食べることができなかったという話があります（芦田譲先生は、当園を設計した郡場寛先生の弟子）。

池の北側の照葉樹林化したエリア、クスノキ科のコーナーを経て、北東角のブナ科コーナーまで行きまとめとなりました。コゲラが近くの枝に来て、盛んに穴を掘り虫を探す様子をじっくり見せてくれました。

紅葉の始まった秋の植物園を、のんびり楽しめた二時間でした。

ガイド：野間直彦さん（滋賀県立大学環境科学部）

**☆参加者の感想**

参加者の感想文です。実名・匿名の指定がないかたはすべて匿名にいたしました。ご了承ください。

* 京都市内にこのような自然のままの植物園があるのにおどろいた。サポニンを多く含む石けんの木などのめずらしい植物や、人がたくさんいてもえさをついばんで穴に出入りする。コゲラの鳥、キヌガサタケなどを見ることができて、ひとときの間いやされました。　（京大関係者の家族のかた）
* 先生のお話がとてもわかりやすく、こういう機会があれば又参加したいと思います。ありがとうございました。　　　　　　　　　　（学外のかた）
* 野間先生の説明が良かった。特に“くぬぎ炭”のところ。　　　　（石崎信男さん）
* 植物園の中を歩いているだけできぶんそうかい。緑はいやされる～。（伊藤浩子さん）
* とても楽しかったです。とても勉強になりました。また参加したいです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（小野静香さん）
* 興味深い話を聞けて、楽しい時間を過ごせました。野間先生、説明が上手だと思いました。また来たいです。　　　　　　　　　　　（中尾泰治さん）
* 面白かったです。毎日見ている植物園の奥がどうなっているか分かりました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学内のかた）
* 府立植物園にはよく行くが、たくさんの人で自然らしさが失われているように思うが、京大植物園は自然がたくさん残っているように思われた。森のにおいというか、木のにおいというか。　　　　　　（田村雅光さん）
* 毎月かんさつ会を１回してほしい。　　　　　　　　　　　　　　（すぎはらみほさん）
* 夏に自然林の観察に行ったが、その時のことを思い出しながらとてもおもしろかった。京大にこのような植物園があったことにびっくりした。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学内のかた）
* 珍しい植物がいっぱいでおもしろかった。でも多すぎて消化不良。植物園が存続すればいいなあ。　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* ありがとうございます。生物がとても微妙に共に生きているのを深く感じました。それとこの植物園の大切さ。表面に華々しくあらわれるものではないので、理解してもらい生き残るのがたいへんです。これからも楽しみにしてます。　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 久しぶりに歩けて楽しかったです。また散歩しにきます。　　　　（石井励一郎さん）
* 何げなしに見ていた山の木々についても見方を変えればおもしろく見ることができ、大変おもしろく思いました。　　　　　　　　（学外のかた）
* 野間先生のご説明が大変明快でわかりやすく、すばらしい観察会でした。これからもぜひ参加させていただきたいと思います。　　　（伊吹之博さん）
* ていねいでわかりやすい解説をありがとうございました。　　　　（中西麻美さん）
* 野間さんの説明がすばらしく、また天気も良くて、京大植物園のすばらしさを満喫しました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（川那部浩哉さん　川那部綾さん）
* 本当に近所に住んでいるのに、初めてこういう森があることを知って、とても発見で、勉強になりました。とても楽しかったです。　　（近所のかた）
* 楽しい会でした。又参加したいと思います。　　　　　　　　　　（近所のかた）
* こんなにたくさんの植物があるとは知りませんでした。大マ面白かったです。貴重な植物も多いとのことでしたので、これからも残して頂きたいと思いました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学内のかた）
* 初めての観察会です。里山が大好きです。この様な広大な地に多数の植物があり楽しませて頂きました。又機会があれば来て見たいです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* 久しぶりに秋の植物園を楽しめました。木が高くなって、また林の構造が発達しているように思いました。遺跡のところは、草刈をした方がいいですね。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（野間直彦さん）
* 木・草の名前だけでなく、開花・結実が種によってどう違うか、またその背景にある生態的要因はどのようなものであるか、など、専門的な話もうかがえて面白く思いました。　　　　　　　　　　　（学内のかた）
* よく１人で来ているのですが、詳しい人と一緒に歩くと、いろいろと新しい発見があっていいですね。　　　　　　　　　　　　　　（学内のかた）
* 落葉の始まり、見通しのよくなった植物園で、主に大径木をくわしく説明いただいて、非常に有意義な時間を過ごせたと思います。また、ちがう季節にも観察会に参加したいです。　　　　　　　　　（学内のかた）
* 久しぶりに自然にふれる機会を得ることができて楽しかったです。少し時間が遅れてしまったので(入場の)、来年はしっかり参加させていただきたいと思います。(子供が学部生ですので、毎年学祭に来るつもりです)。我家の庭とラップしながら、いろいろ考えたり思いをはせたりしました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京大学部生の家族のかた）
* 素晴らしいガイドさんに感服しました。　　　　　　　　　　　　（田中賢一さん）
* 大変よかった！！　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（ご夫婦で参加のかた）
* 何も知らないで木など見てもおもしろくないけど、説明があるとおもしろいと思いました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（田渕野枝さん）
* きれいな葉と実がよかった。　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* ていねいな説明でとてもよかった。　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* 京大の中にこんな素晴しい植物園があるのを知らなかった。今日は、コゲラ？もみられ説明もおもしろく楽しかったです。又こういう機会を増して、皆に楽しんでもらえるようにして下さい。ありがとうございました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 知人に声をかけられたので来ました。学生時代は入ったことがなかったですが、とても良いところでした。森の空気を吸ってとても気分がよかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（杉林剛さん）
* 今日伺った樹木の花はどんなのか知りたいので春も企画して欲しい。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* 楽しかったので毎月観さつ会をして下さい。　　　　　　　　　　（杉原雄太さん）
* 近くにいてたびたび散策していますが、知らない樹について教えていただいてとても楽しかったです。　　　　　　　　　　　　　　（学内のかた）
* 勉強になりました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 植物の不思議・神秘を垣間みた感じで、楽しい2時間でした。　　　（近所のかた）
* とても丁寧に御説明していただきありがたく思いました。四季折りおりとの事なので又来たいと思いました。　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* とても興味深くきかせていただきました。　　　　　　　　　　　（田村京子さん）
* きょうはspecial観察会。いつもよりも長い時間なので、じっくり話を聞く事ができてとてもよかったと思う。また、この様な機会があればよいのにと思う。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（瀧野佳洋子さん）
* エコソフィアの記事を読んでやって来ました。開花期にやって来たいです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* めずらしい樹々がのびのびそのまま育っていて、うれしく拝見しました。ありがとうございました。　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* なかなか見れない所が見れて良かったです。ボランティアをつのれば、草刈りやお手伝いされる人もたくさんおられると思います。ずっと残してほしいですね。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（Yukaさん）
* 先日ヒエイ山の自然観察会にも参加。非常に興味深かった。　　　（学外のかた）
* 昆虫がいなくて、説明する機会がなく、少しさびしかった(笑)。まあ、他の虫もいなかったんですけどね。　　　　　　　　　　　　（ガイド候補嘉田修平さん）
* はじめて存在を知った植物もあって、久しぶりに参加できて楽しかった。先日一人で少々歩いてみたが、やはり多くの目があると発見も多いと感じた。講師の人の話も意義があるけど、観察しようという多くの目の発見がいいです。　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 家の前の疎水沿いに月桂樹や蝋梅を育てたり、まゆみの実や月見草を楽しみながら、東山の秋の彩りに魅せられています。植物園は始めてでしたが、無限の発見ができそうな里山の懐かしさがあって、少女の頃の胸のときめきを感じとても楽しい会でした。ありがとうございました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）